

テクノ高知を取材して

工場内には、大きなコンピーター内蔵の機械がずらりと並び、従業員が、ボタンをピッピッと押すだけで自動的ご懸断ができていく。機械が作業工程に応じて、必要な工具を開選うことなく選び、完成品に仕上げていく、なんて賢い機械かと、びっくりしてしまいました。

テクノ高知には、現在十二社の会社が入居している。会社の規模はさまざまで、それぞれ造られる製品や部品など、業務内容は違うものの、どの工場も明るく、すばらしい環境で仕事をしている。中には、製品のほとんどを海外に輸出している社もあり、この南国市から海を渡って世界に送られていると聞き、またまた驚きの連続であった。

テクノ高知に入居してから、会社規模が大きくなっていく社が多いという、それには、回業者が隣接しているということが、技術面の向上、情報交換などメリットになる面が多いようだ。また、忙しい時などは、お互いが助け合って仕事をこなすこともあるそうで、会社同士が、良い影響を受けたり、与えたりしているようだ。

テクノ高知は、何よりも工業技術の高揚を目指して、伝統のある職人的技術と最先端のテクノロジーとの融合に心がけ、将来の社長、工場経営者の育成を夢に描いている。

そのためには、隣接地に貸し工場ができれば、将来、テクノ高知に結果する組合企業はもうある、南国市の発展も約束されるのだが...

理事長の談話は、終始、情熱的で豊かな創造性に富み、話術も優れていて私たちをすっかり魅了してしまっただ。



ハイテク設備で飛躍を目指す
機械・金属製造業の地場企業集団

テクノ高知

工場共同利用事業団地

近年、南国オフィスパーク・流通業務団地など、めざましい企業進出が進む南国市。
この中で、本市の平成七年度製造業の出荷額は、約八百六十九億円に達します。その製造業の一翼を担う地場企業集団「協同組合テクノ高知」を広報委員が取材しました。

四国で初、全国的にも有名な工場のアパート

飛行機が高知空港に着陸するときに目にする、連なる山々、青い海、なぎさノフレクシユ海岸に描かれた鯨の絵、そして青い屋根に「TECNO KOCHI」の白い文字。南国バイパス沿いに、淡いグリーンとブルーの落ち

着いたツートンカラーの二層テクノ高知ができたのは平成二年のことである。

スマートな外観に、オートメーションで、例のハイテク部品をマスクかけて造っているところという予想に反し、そこは、町工場の団地だった。四国からなる十二の各工場の外には、整然と乗用車が並び、入り口に置かれたプラントには季節の花が咲き、外壁はまだ十分きれいにもかかわらず、ペンキを塗り替えていた。煙突から黒い煙、騒音、側溝には、油膜を浮かべた赤さびた水、という何十年も前の工場のイメージは一掃された。スマートで整備されたこの環境は、空港・高速度・高知新港に近く、工科大や高知高専・東工業高校など、産・学連携による技術協力もでき、若年労働力も得やすい優れた立地条件にある。また、環境

問題が重要な今日、民家のない調整区域に立地し、燃料には電気を使い、また屋内作業により騒音も少なく、工場から出る汚水、廃油は一滴たりとも外に出さない設備を備えている。各工場から出る廃液は、浄化槽に集められ、二段階に厳重チェックし、月に一回は、市に水質検査結果の報告をしている。



若者に「社長を目指せ」と熱弁をふるう高永理事長

イグリード・ハイコストの建物」。また、ある工場の制服は、空色の薄手デニムのシャツ、ベージュ色の紺パンだった。若者がホワイトカラーを目指し中、理事長の熱い思い「若者に来てもらえるスマートな工場」創りは実を結び、例年、高専・東工業高・ポリテクカレッジ・土佐女子短大などから十人ほどの若者を雇用しているそうだ。

廃材も無駄にせず、穴あきくず入れに



スカイ・ブルーを基調にしたきれいな工場棟
カラー写真でなくて、とても残念...



ハイテク機械を
自由自在に扱って



敷地配置図



協同組合テクノ高知概要
所在地 南国市明見
設立 H2.11.7



整理整頓された工場内。訪問前に考えていたイメージとはまったく違う。